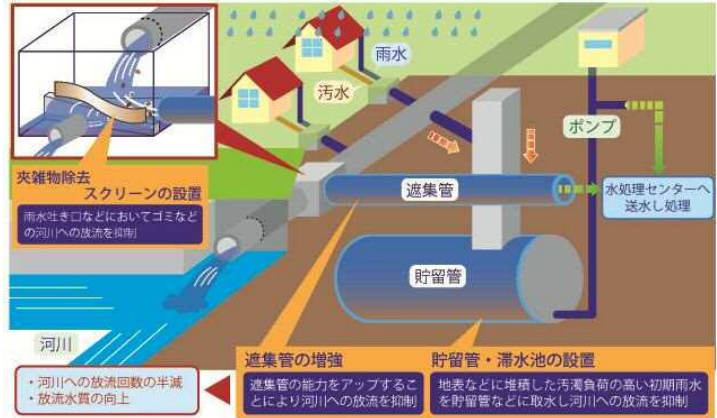


取組概要	進行管理の指標	令和3(2021)年度の取組結果		
<p>○合流式下水道は、雨天時にし尿を含む未処理下水が放流され、水質汚染が社会問題化したことから、未処理下水の汚濁負荷や放流回数の削減を図るため、雨水貯留管・雨水滞水池※などを建設して、汚濁負荷の高い初期雨水対策を進めてきた。雨水吐き口やポンプ場から放流される夾雑物を削減するため、合流改善スクリーンなどの設置、ポンプ場スクリーンの目幅縮小を進めており、引き続き取組を実施する。</p> <p>※雨水貯留管・雨水滞水池 汚濁負荷の高い初期雨水を一時的に貯留する施設（本市では多くの施設で浸水対策の役割を併せ持つ）</p>	<p>○令和3年度末合流式下水道改善率 73.5%（目標）</p>	<p>○令和3年度末合流式下水道改善率 73.5%</p> <p>○六郷遮集幹線建設事業の推進</p> <p>○大師河原ポンプ場改築事業の推進</p>		
		評価	下水	3

5か年計画の総括		
<p>○平成29(2017)年度、丸子地区に合流改善スクリーンを設置</p> <p>○六郷遮集幹線建設事業の推進</p> <p>○大師河原ポンプ場改築事業の推進</p>		
評価	下水	3

今後の取組		
<p>○大師河原貯留管を合流改善対策施設として活用するための大師河原ポンプ場の改築</p> <p>○六郷遮集幹線の整備</p>		



合流式下水道改善のイメージ

# IV 環境に配慮した行動の促進

## IV-1 事業活動における適正な環境管理

### IV-1-(1) 市役所の率先した環境配慮の取組

水道 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	令和3(2021)年度の取組結果		
○「川崎市地球温暖化対策推進計画」の柱の一つである「市役所の率先取組の推進」に基づき、事業活動に伴う温室効果ガス排出量を削減する取組を行う。	○令和3(2021)年度の目標値 低燃費車導入率94.2% (207台中195台うちハイブリッド車15台)	○低燃費車導入率88.8% (215台中191台うちハイブリッド車19台)		
		評価	水道 工水 下水	4

#### 5か年計画の総括

○近年の気象変動に伴う災害等から、計画時に無かった排水ポンプ車や復旧工作車などの特殊車両を新規導入したことなどにより目標値を下回った。

評価	水道 工水 下水	4
----	----------------	---

#### 今後の取組

○公用車は代替時期に合わせて、順次低燃費車を導入

#### [低燃費車の導入率]

	車両総数	車両総数のうち低燃費車数	低燃費車の導入率	
			目標値	実績値
平成29(2017)年度	207台	176台	85.5%	85.0%
平成30(2018)年度	204台	173台	86.5%	84.8%
令和元(2019)年度	209台	179台	89.4%	85.6%
令和2(2020)年度	213台	179台	93.7%	84.0%
令和3(2021)年度	215台	191台	94.2%	88.8%

### IV-1-(2) 省エネ法に基づくエネルギー管理の取組

水道 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	令和3(2021)年度の取組結果		
○省エネ法により、事業者単位でのエネルギー管理が義務付けられており、局全体が「特定事業者」として指定を受けている。エネルギー管理統括者等の選任、中長期計画書・定期報告書の作成・提出を行う中で、エネルギー使用量の把握及び適正管理を行い、中長期における年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目指す。	○上下水道局全体で中長期における年平均約1%以上のエネルギー消費原単位 <sup>※</sup> の低減 ○令和2(2020)年度エネルギー消費原単位 ・浄水場等(水道)：0.01687k1/千m3 ・浄水場等(工水)：0.02781k1/千m3 ・水処理センター等(下水)：0.1185k1/千m3  <sup>※</sup> エネルギー消費原単位 エネルギー使用量をエネルギー消費と関連のある量で除した値で、エネルギー消費効率を比較するための単位(省エネ法の努力目標=年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減)	○令和3(2021)年度エネルギー消費原単位： 前年度比 1.2%増(全体) ・浄水場等(水道)：0.01687k1/千m3(±0) ・浄水場等(工水)：0.02669k1/千m3(4%減) ・水処理センター等(下水)：0.12k1/千m3(1.3%増) ○中長期におけるエネルギー消費原単位0.2%低減 ※定期報告書では令和3年度報告分から水処理センター等(下水)に係る原単位の見直しを行ったが、本報告書では、前年度までと整合を図るため、従前の方法で原単位を算出		
		評価	水道 工水 下水	5

#### 5か年計画の総括

○東京湾流域別下水道整備総合計画に基づく目標水質の達成を目指し導入した入江崎水処理センター西系高度処理施設が2019年度より本格運用したこと等によりエネルギー使用量が増加したため、目標を達成することができなかった。

評価	水道 工水 下水	5
----	----------------	---

#### 今後の取組

○中長期における年平均約1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目指し、省エネルギー対策への取組を引き続き推進

(単位：k1/千m<sup>3</sup>)

#### エネルギー消費原単位の推移

